母校新校舎は来年十月に完成予定

▲体育館より東方向、旧正門方向を望む
新校舎の予想俯瞰図。南東方向上空位置から▼

来年秋の竣工を目指して、母校は建て替え工事期間中です。口絵写真でお分かりのように、旧校舎の解体は完全に終了し、以前の事務室横の樹木だけが更地に残されています。新しい校舎にかかる樹木は、全て除去されてしまいましたが、それでも結構多くの樹木が残されています。この更地にどんな校舎が建つのか、来年の秋が楽しみです。

石神井高校同窓会誌
「きずな」 第55号
平成18年5月発行
発行：
都立石神井高等学校
同窓会広報委員会

黒菱山荘を知ってますか？

黒菱山荘は、スキーのメッカ、長野県白馬の八方尾根にある石神井高校の山荘です。同窓会の山荘委員会が管理しており、石神井高の生徒・同窓生はもちろん、父母・教師も利用することができる施設です。13ページに利用方法のご案内を載せておりますので、もっと積極的に皆さんで利用してはいかがしょう？

石神井高校同窓会ホームページ
http://www.shakujii-club.gr.jp
ぜひ御覧ください。

今年の同窓会総会 ・ 懇親会は 6月25日日曜日に開催します。

同窓会総会　13:00より母校にて
同窓会懇親会　14:00より〃

※開催場所は母校にて当日の掲示をご覧ください。
※今年は学校側の行事の都合上日曜日の開催になっておりますのでご注意ください。
※当初同窓会HPなどで、6月24日の開催の予定をお伝えいたしましたが、予定が変更になりましたことをお詫びいたします。

一昨年の懇親会より

Shakujii Memorial Photos

母校旧職員の佐藤良徳先生の撮影された旧校舎（S37～H17）の四季です。(撮88-91年)

体育祭メモリアル 70’ S

講演会で使うため、以前の写真を探していた過程で、70年代の貴重な写真が出てきました。かなり変色退色しているものもありますが、70年代らしい女子のミニスカート、あきれるほど巨大なマスコット、そして今も変わらない人塔のデモンストレーション。多分、今の現役生の親の世代の、同じような熱い青春が写っているようです。

母校の発展、三位一体で

同窓会会長　林　弘

会員の皆様、元気にお過ごしですか。

ここ数年不安定な天候が続いておりますが、最近の世情もまたこれに合わせるかのように、憂慮すべき状況となっていると言えましょう。

このような中にあって、社会に役立つ活動のためには、健康であり正常な精神であることが必要です。

本会名誉会長の福本雄吉校長が、昨年の本誌「きずな」の巻頭挨拶で、本校の目指す学校像として「知、徳、体のバランスの取れた良識のあるリーダーの育成」を提唱されておられるのも、こうした社会的要請に応えるものであります。

折しも、校舎の改築工事は急ピッチで進んでおり、ニュー石神井高校の出現が現実のものとなってきました。本会は、この新しい器に輝かしい伝統を継承させ、母校の永続的な発展を心から願うものであります。

そのために、本会は学校側の教育活動に呼応し、「父母と教師の会」とも連繋し、いわば「三位一体」の構えをとりながら、事業を展開していく所存であります。

本会を取り巻く環境は厳しさを加えておりますが、会員各位におかれては、従前にもまして、本会の活動にご理解ご協力を賜りますよう、お願い申しあげます

きずなを強めて

学校長　福本　雄吉

早いもので昨年四月に着任してから、もう一年が過ぎました。この間、林会長をはじめ役員の皆様方には、母校の教育活動にご理解とご支援を賜りまして誠にありがとうございました。おかげさまで母校と同窓会の“きずな”がいっそう強まった一年だったと思っています。厚く御礼を申し上げます。

黒菱山荘の管理運営の一元化

昨年四月に着任して間もなく、たいへんお世話になっております学校所在地の町会長様で、前同窓会長の高橋様から、黒菱山荘の話を伺いました。今まで山荘の管理は、学校側と「父母と教師の会」と同窓会の三者で委員会を設け、管理運営に当たっていたということでした。しかし、実質、同窓会の山荘委員会が管理運営を行っている状況もあって一元化を図りたいという意向のお話でした。また、現役員の方々からも、同趣旨のお話を伺いました。

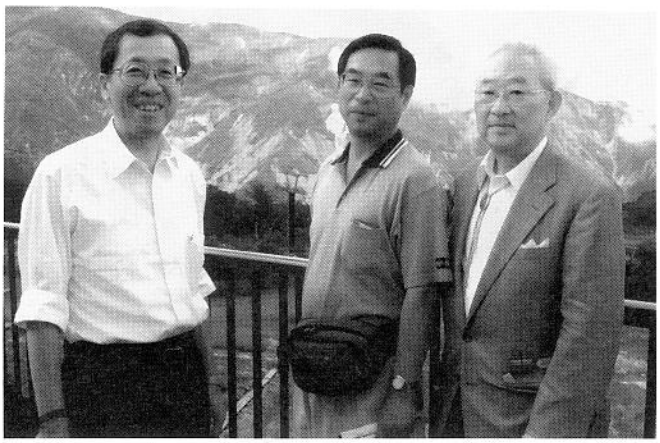
それを受けまして、「教師と父母の会」の会長や本校の事務長とも協議を重ね、同窓会に管理運営をすべて委譲することに合意を得ることができました。そして、林会長と城副会長、本校の長津副校長と一緒に白馬村に行き、現地で山荘の面倒を見ていただいているスカラのご主人・石田弘行様（十六回生）ともお会いし、お話をしました。また、八方振興会理事長の丸山忠孝様や保証人になっていただいております丸山庄司様にも直接お会いし、ご了解を得ながら新たに山荘についての契約書を交わしました。それにより、今までの課題であった黒菱山荘の同窓会による管理運営の一元化の実現を図ることができました。

今後は、学校側としましても、山荘のより一層の活用を目指して工夫していきたいと考えているところです。

なお、七月に行われました「父母と教師の会」主催の《山荘ツアー》に参加し、山荘のベランダから月明かりに幻想的に浮かぶ白馬の山並みを見ることができました。この光景は、今でも印象的な思い出となっています。同窓生皆様の積極的なご利用をお勧めします。

講演会講師派遣

同窓会と学校の結びつきをより強めましたのは、講演会講師に同窓会の方々に来ていただいたことです。「父母と教師の会」の講演会にはNHKアナウンサーの道谷眞平様（二十七回生）、生徒への進路講演会には浦川伸一様（三十二回生）や有坂



左より長津副校長、福本校長、林同窓会長

哲様（四十六回生）から、貴重なお話を伺うことができました。社会で活躍されている同窓生からのお話は、必ずや保護者や生徒によい影響を与えていくものと思います。

今後も、同窓会のご協力をいただきながら、講師等をお願いしたいと考えております。

同窓会に全員加入

最後に、今年3月卒業生は全員が同窓会に入会しましたことをご報告いたします。三学年担任の先生方のご尽力によるものですが、やはり同窓会と学校との関係が良い状況にあることの証でもあると受け止めています。どうぞ今後とも母校の発展を温かく見守っていただければ有り難いことと思っていますし、良い関係が持続することを願っております。

終わりに、これからも会員皆様方がきずなをいっそう強めて、さらに充実した同窓会活動を展開なさることをご期待申し上げます。同窓会の益々のご発展をお祈り申し上げます。

「この一年を振り返り」

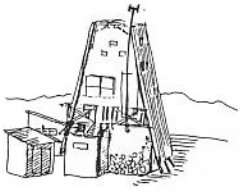
副校長　長津美明

平成十七年四月一日に着任して一年余がたちました。この間、石神井高校は旧校舎が解体され、新校舎建設にむけ大きな一歩を踏み出しました。その意味では大きな変革のあった1年でありました。副校長として大きな責任を感じました。職務には全力を傾けてきましたが、やり残したこともいろいろとありました。今後も努力していく所存です。

石神井高校に着任以来、同窓会の方々には校務運営に大きなお力添えを賜り、誠にありがとうございました。同窓会長の林様、同副会長の城様にはとりわけいろいろとお世話になりました。学校運営連絡協議会の協議委員やキャリア教育実施への講師派遣等、石神井高校の教育に深い理解を示され、ご協力いただいたことに深く感謝申し上げます。同窓会のパワーを垣間見た一年でありました。「伝統校の力」とは「同窓会の力」でもあることを学びました。

さて、昨年の七月にＰＴＡの方々と一緒に初めて黒菱山荘にいきました。長野県の白馬村八方尾根にある本校の施設です。自然の中にある貴重な施設であることを感じました。八月には林会長、城副会長、福本校長、そして私の四人で再度白馬村に出向き、黒菱山荘の管理面で大変お世話になっている「対岳館」に宿泊をしました。「対岳館」に関係者をお招きし黒菱山荘の土地貸借契約書を取り交わしました。この施設の維持管理を同窓会の方々が懸命に支えていることを知り頭が下がる思いでした。母校を愛してやまない同窓会の熱い想いがこの黒菱山荘に象徴されています。

慌ただしく一年間が過ぎ去っていきました。昨年度は忙しくて家族旅行もできませんでした。ここ二～三年そんな状況が続いています。家族のふれあいがことのほか大切な昨今、自分の生活を反省することが多い毎日です。その中で、仕事とはいえ「黒菱山荘」の一泊と「対岳館」の一泊が強烈な印象として心に残りました。石神井高校には貴重な財産がある。この財産をなんとか活用したい。同窓会の期待に応えたい。そんなことを考えている二年目です。

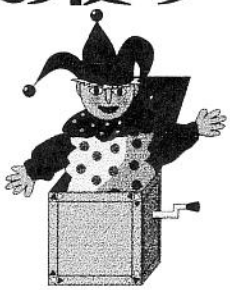


今年の教職員の移動

転出された先生方

加藤　兆先生（国語）翔陽高へ
加藤　郁朗先生（公民・政経）鷺宮高へ
瀧本　秀人先生（数学）広尾高へ
橋本　達也先生（数学）秋留台高へ
平田　晴厚先生（理科・化学）東村山高へ
寺崎　幸弘先生（理科・生物）美原高へ
島田美穂子先生（理科・生物）退職・田無工嘱託
横澤　明翁先生（保健体育）中野工へ
遠藤　成夫先生（美術）退職・小山台高嘱託
岩下　政行先生（数学）退職
景山　典子先生（英語）退職

お便り



お寄せいただいた原稿を中心に構成していま

母校への恩返し

父母と教師の会　会長
上田　昭（高二十九回）

私は、本年度の本校「父母と教師の会」の会長を務めることとなりました。藤井勇治前会長と同様、よろしくお願い申しあげます。つきましては、この機会に本誌をお借りして一言ご挨拶申しあげます。

実は、六年前に長女が石神井高校へ入学し、その二年後に甥が入学、三年後には長男が、そして昨年は姪が入学というように、続けて身内の者が母校のお世話になっております。このようなことから、長男の入学を機に、お世話になった母校に少しでも恩返しができればと思い、クラスの学年委員を引き受けたのが、父母と教師の会に参加する端緒となりました。

今、母校では校長先生を中心に、教職員が一丸となって自由闊達な校風を守りながら、生徒が学業修得に力を注げるよう、さまざまな取り組みを行っています。父母と教師の会でも、保護者の学校活動への参画により文武両道を推奨する特色ある学校づくりに寄与することを目標に掲げているところであります。

そこで、平成十八年度は、同窓会との交流を深めることを活動方針の一つにいたしました。各方面で活躍されている卒業生の皆様のご経験やアドバイスを在校生に伝えていただき、彼等の将来の目標設定の一助となるような機会を作っていくことを計画しています。

会員各位におかれては、この趣旨にご理解を賜り、後輩のためご協力くださいますよう、お願い申しあげます。

ご挨拶

父母と教師の会前会長　藤井　勇治
（衆議院議員）

同窓会会員の皆様には益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

現在、私の子供が石神井高校の三年生です。毎朝「行ってくるよ！」と楽しそうに自転車で通学する姿を見ると、父親として嬉しい気持ちになり、学校に感謝しています。私は昨年度の本校「父母と教師の会」会長を務めさせて頂きました。充分な活動はできませんでしたが、会員、役員の皆様のご協力を得て任務を終える事ができました。ありがとうございました。

現在、私は衆議院議員として立法府で活動しております。ＰＴＡを通じて教育の現場で得た経験を国政の場で生かしていきたいと思っています。「学校」「家庭」「地域社会」のこの三者がスクラムを組み生徒、児童を育てていかなければなりません。

「教育」は、まさに「国創り」であります。政府は今通常国会に新しい「教育基本法案」を提出しました。昭和二十二年に制定された現行教育基本法は、六十年経過しており、社会全体の状況が大きく変化する中で、教育の根本にさかのぼった改革が求められております。

同法案のポイントは次の点です。

これからの教育は「二十一世紀をきり拓く心豊かでたくましい日本人の育成」を目指し、そのために「公共の精神を学び、二十一世紀の国家、社会の形成に主体的に参画する日本人の育成」を目指すことです。また、「伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛すると共に、他国を尊重し国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと」も大きな狙いと言えます。

私は、戦後六十一年のこの機会に、国民みんなで我が国の教育を議論することが重要だと思っております。

末筆になりましたが、歴史と伝統をもつ石神井高校の同窓会員の皆様のご活躍を祈念申し上げます。

校舎の改築に思う

城　和裕　（高十二回）

お招きを得てこの数年、母校の卒業式・入学式に参列しております。以前の卒業式には厳粛な気分がなく、名前を呼ばれてもロクに返事のできない生徒や、ふざけた行動に出る生徒がいたりして、私もハラハラしたものですが、最近はかなり変わってきたと思われます。

問題の国旗掲揚、国歌斉唱については、型通りに実施しているという感は免れず、賛否両論ある中で事無く終わってほしいという学校当局のお気持ちが窺がわれるところでした。考えてみると、オリンピックやワールドカップでは、日の丸を振り、君が代の演奏に感激するのに、学校行事では、なぜこのことが問題となるのか、私には不思議でなりません。

というのは、他国の国旗、国歌に相当の敬意を示すことに異議をいう人はまずいないでしょう。それなのに、日の丸、君が代には無視、拒否の態度をとるのか、このギャップを合理的に説明できる方がいらっしたら、ぜひお聞きしたいものです。

とは言え、母校の式典に参加して、親しく在校生諸君の様子を見ていると、彼等にも若い人なりの不安や苦悩のあることが察せられます。また、その父母や教職員の方々にも、いろいろな問題で苦しんでいることでありましょう。こうした価値観の多様化した実態を考えると、卒業生である我々が、自らの体験を在校生に聞かせるのは、社会の実相を伝えることとなるだけに、一つの有力な母校支援策ではないかと考えるのです。

現に、昨年は浦川伸一氏（高三十二回）、一昨年は高田静夫氏（高十八回）にやってもらって、大変好評でありました。今後も継続することが望ましいと思います。

来年には新校舎が完成します。この機会に石神井高校生徒諸君には、心と智恵と体を鍛え、自らに厳しく他に優しい人物に育ってほしいと願わずにはいられません。及ばずながら、同窓会も有形無形の母校支援を実施します。

会員各位におかれても、同窓会の活動にご理解、ご協力を賜るようお願いするところであります。

「♪　金のたまだよ」

佐藤　健　（高校三回）

音楽の山田浅蔵先生は熱心なご指導振りで、単位をとる目的だけで音楽を選択している我々にも、男声四部合唱という「高度な」技量を求めました。私のパートはハイバリトン。あれ困るんですよね。上下のパートに挟まって音程がゴチャゴチャになり易いから、いつの間にかハモらなくなる。終ってみれば「君が代」斉唱のようになったりして。

「コールユーブンゲン」という合唱教本でみっちり練習しました。私は耳をふさぎ自分の音程を必死に守ったものです。努力の甲斐あって「独逸ミサ曲」をマスターしたので、秋の「文化祭」で発表することになりました。

あの頃、母校には施設がなく文化祭の演劇、音楽部門は市ケ谷の東京家政学院の講堂を借りての開催です。その日、指揮山田先生、ピアノ伴奏O君で華々しくステージの幕が開きました。今でも仲間が集ると、あの時のあの曲の一節が口元から出て来るから不思議です。

さて、本題に入ります。某日の授業時間中のこと。我々は北原白秋作詞、山田耕筰作曲の「からたちの花」を練習していました。歌は二行詩で六番までの簡単なものですが、一番ごとに曲調が微妙に変わるから、我々の歌い方では先生のご満足が得られず、なかなか前へ進みません。

それでも、やっと4番へ来ました。誰でも知っている「♪からたちも秋はみのるよ　まろい、まろい、金のたまだよ」です。ここは、メゾフォルテで始まって、「まろい」のところからピアノで歌わなくてはいけない。滑らかに移行するのが難しく、先生は何回も何回もやり直しを命じます。

こうなると、悪ガキどもは飽きてきます。そして、よからぬことを考えるものです。私も「♪金のたまだよ」の「の」を除いて歌うと面白くなることに気がつきました。同じ時に他の連中も、これに気がついたらしい。誰かがプッと噴出しました。先生は「静かに！」と声を荒げます。これで誰も同じ気持であることが分かったわけです。

先生はまた四番の頭から伴奏ピアノを弾き始め、我々も「♪からたちも秋はみのるよ・・・」と歌いだします。そして予想どおり、殆どの者が「きんー」のところで、次の「の」

を飲み込んでしまったのです。「の」の音が先生の耳に届きません。先生は一瞬ギョッとされた様子でした。「誰だ、ふざけるのは！」と厳しい顔をされたのですが、皆がゲラゲラ笑い出したものだから収拾がつかなくなりました。「今日はこれで終わる。みんな次の時間までに練習しておくように」と言い残して先生は教室を出て行かれました。

時は昭和二十五年。私の「高校三年生」の思い出の一コマです。

「山荘に思う」

石田弘行（高十六回）

八方尾根に黒菱山荘が完成したのは昭和三十六年、私が石神井高校に入学した年であります。今年、山荘は四十五歳、私は六十一歳になりました。私は山荘を介して白馬との縁が深まり、そこに住みつき、気がつけば人生の大半を白馬とともに歩んできた者であります。

北アルプスの八方尾根は、古くから我が国屈指の登山、スキーのメッカで、中部山岳国立公園に位置する貴重な自然の宝庫として知られた場所です。私は、そこに山荘を持つ意味、持った意味を同窓会会員、教職員、そして在校生諸君に、改めて考えてほしいと思っております。

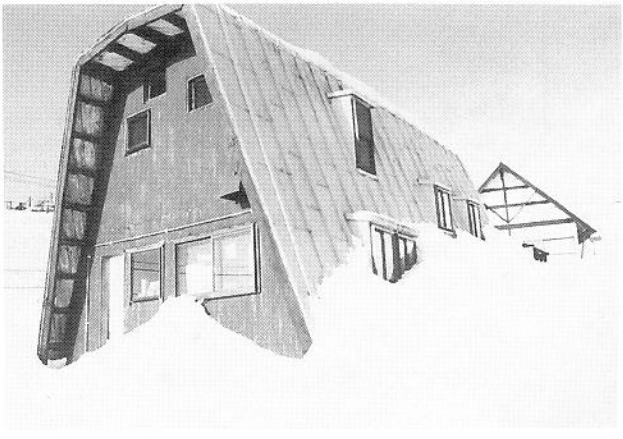
学校の公式行事として山荘の利用が途絶えてから久しい歳月が流れてきました。同窓会はこの状況を変えるべく、山荘活用について種々努力をしてまいりました。しかし、教職員とPTAのご理解、ご協力なしには、思うような成果が得られないのは当然のことでしょう。

皆さん考えてください。山荘周辺の自然環境もさることながら、四十五年の間に磨きぬかれた黒光りする山荘の階段、廊下。それは母校の名の下に育まれた伝統を実感できる貴重な教材ではないでしょうか。

このまま、在校生に利用されることもなく、日を重ねてしまうには、あまりにももったいなく、無念の思いに駆られるのは、私だけではないと思います。

山荘は、すでにあるものです。新に造ろうというものではありません。現にあるものを在校生諸君に活用してもらいたい。そのための方策を検討し、実行してほしいと願うのです。同窓会が音頭をとり、教職員、在校生とその父母が、一つのテーブルに着いて、叡智を絞っていただきたいと切に願う次第であります。

写真・上段、山荘正面（一昨年の改装前）
写真・下段右、冬季積雪時の山荘。雪から顔を出しているのは二階台所の窓とドア。
写真・下段左、快晴の白馬三山



定期総会開催のお知らせ

同窓会規約第18条にもとづき平成18年度定期総会を
下記により開催しますので、ご参加ください。

平成18年6月1日　同窓会会長　林　弘

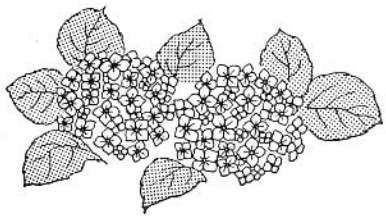
記

日時　平成18年6月25日(日)　午後1:00より
場所　母校会議室（予定）
議題　第一号議案　平成17年度事業報告
　　第二号議案　同上の収支決算報告及び会計監査報告
　　第三号議案　平成18年度事業計画案
　　第四号議案　同上の収支予算案

第一号議案　平成17年度事業報告
平成17年度(2005年)平成17年4月1日～平成18年3月31日
〈平成17年(2005年)〉
4月　母校入学式に会長が来賓として臨席した。
4月　役員会開催　☆会計報告と次年度予算案
　　☆総会の役割分担　☆黒菱山荘基金
5月　同窓会会報誌「きずな」第54号を発刊し
　　会員に送付した。
7月2日(土)　平成17年度定期総会。定期総会議事はすべて原案どおり可決承認される(議案は「きずな」に掲載)。
10月1日(土)第12回東京校歌祭(日比谷公会堂)にブラスバンド
　　有志を交えて参加した。

〈平成18年(2006年)〉
3月　母校卒業式に会長が来賓として臨席し祝辞を述べる。

第四号議案　平成18年度事業計画(案)
◎例年どおり次の事業を実施する。
☆会報「きずな」第55号(カラー印刷ページ入)を発行。
☆インターネットに「石神井高校同窓会ホームページ」の運営を継続する。
☆総会終了後の懇親会を開催する。
☆第14回「東京校歌祭」に参加。会員各位の多数参加を期待する。



第二号議案　同上の収支決算報告及び会計監査報告

平成１７年度 会計収支決算
(平成１７年4月１日～平成18年3月３１日)

	平成１６年度実績	平成１７年度予算	平成１７年度実績	予算に対し増減	備考
1)収入の部					
ｱ、繰越金	662,292	893,815	893,815	0	
ｲ、入会金	1,334,642	1,175,000	1,174,381	▲ 619	H17年卒業生入会金235名分
ｳ、年会費	3,929,035	3,900,000	3,286,955	▲ 613,045	入金件数減少(315件)
ｴ、雑収入	582,713	100,000	138,959	38,959	会員名簿売上寄付金
収入合計	6,508,682	6,068,815	5,494,110	▲ 574,705	
2)支出の部					
A. 総会費	1,069,562	650,000	558,251	▲ 91,749	懇親会等
B. 本部費	199,506	210,000	292,354	82,354	学校PTAとの三者懇談会費等
D. 広報費	1,646,335	1,650,000	1,735,060	85,060	きずな印刷費、ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ代
E. 発送費	1,753,514	1,760,000	1,687,281	▲ 72,719	きずな送料減
F. 行事費	231,290	230,000	218,630	▲ 11,370	校歌祭参加費
G. 山荘費	500,000	500,000	500,000	0	山荘運営助成金
H. 高校援助	100,000	0	100,000	100,000	校外施設利用助成金
I. 新会員	114,660	120,000	111,132	▲ 8,868	新卒業生入会祝い
J. 予備費	0	100,000	0	▲ 100,000	
支出合計	5,614,867	5,220,000	5,202,708	▲ 17,292	
繰越金額	893,815	848,815	291,402	▲ 557,413	繰越金内訳　三井住友銀行 200,993円郵便局90,409円

平成17年度運営基金残金　19,100,900 円

上記のとおり、平成１７年度会計収支を決算して報告いたします。
会計　川口　弘
会計　森　雅夫
会計　道家　正昭
上記会計収支決算を監査した結果、適正であることを認めます。
会計監査　佐藤　健
会計監査　鵜飼　明弘

第三号議案　平成18年度事業計画案

平成18年度（2006年度）予算 案
（平成18年4月1日～平成19年3月31日）

収入の部		平成１７年度 実績	平成１８年度 予算案	平成１７年度 実績との差
				0
	ア。繰越金	893,815	291,402	▲ 602,413
	イ。入会金	1,174,381	1,360,000	185,619
	ウ。年会費	3,286,955	3,700,000	413,045
	エ。雑収入	138,959	100,000	▲ 38,959
	収入合計	5,494,110	5,451,402	▲ 42,708

支出の部		平成１７年度 実績	平成１８年度 予算案	平成１７年度 実績との差
	A. 総会費	558,251	600,000	41,749
	B. 本部費	292,354	220,000	▲ 72,354
	D. 広報費	1,735,060	1,730,000	▲ 5,060
	E. 発送費	1,687,281	1,690,000	2,719
	F. 行事費	218,630	220,000	1,370
	G. 山荘費	500,000	500,000	0
	H. 新会員	111,132	120,000	8,868
	I. 高校援助	100,000	100,000	0
	J. 予備費	0	50,000	50,000
	支出合計	5,202,708	5,230,000	27,292
	繰越金額	291,402	221,402	▲ 70,000

平成１７年（２００５年）度黒菱山荘会計報告書

収入の部	金額（円）	備考
同窓会より助成金	500,000	平成17年度分
黒菱山荘利用料	455,000	宿泊延べ数281件
雑収入	37,026	寄付金37,012円、受取利息14円
合計	992,026	

支出の部	金額（円）	備考
交通費	81,460	JR乗車券特急券、高速道路料等
通信費	31,730	電話代、郵便料
水道・光熱費	108,215	電気、水道、プロパン代
会議費	57,604	月例会議、山寮会議、懇親会費
諸会費	5,000	山寮協議会年会費
修繕費	540	設備関係補修費
備品費	50,258	什器備品、鍋釜等
借地料	150,000	（財）八方振興会
雑費	91,041	ゴミ処理料、保険料、消耗品代等
合計	575,848	

次回繰越金	416,178	
修繕準備金残高	986,136	

平成１７年（２００５年）度運営基金会計報告書

前期繰越金	15,570,728	円
収入計	3,530,172	円
（内訳）	黒菱山荘改修立替金第3回返済金	300,000
	黒菱山荘撤収準備金（学校より移管）	3,227,725
	預金利息	2,447
支出計	0	円
当期繰越金	19,100,900	円

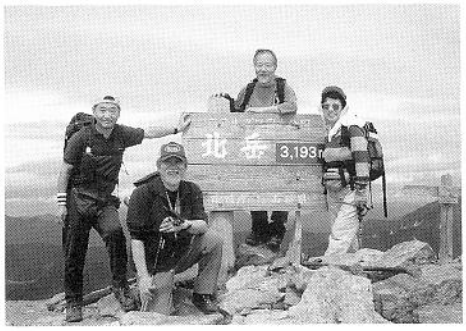
同期会・クラス会の報告とお知らせ

念願の北岳登頂

野中雄介（十三回）

十三回生同期会の活動はゴルフ、登山、スキーなどなど多岐にわたっていますが、とくに登山は山岳部OB会を筆頭に様々なグループが活動しています。

その一つが還暦を迎えた二〇〇二年の九月に富士山登頂を果たした還暦富士登山グループですが、十年以上前から年間八～十回ペースで北アルプス、南アルプス、中央アルプス、秩父・奥多摩の沢登りなど多彩な登山を続けている四人組もいます。



▲去年７月の北岳頂上

鈴木洋二、竹崎文彦、井上由美子（旧姓・石崎）、野中雄介の四人組で、去年は念願の北岳を登頂しました。

我々が登るちょっと前までは、標高三、一九二米だった北岳が、なんと登頂寸前に三、一九三米と一米標高が高くなる僥倖もあり、記念すべき登山になりました。このグループではここ数年、五月の残雪の谷川岳も連続して登っています。

このように十三回生の登山熱は一向に納まる様子はないようで、今年も様々な登山計画が練られているようです。

ちなみに一方の雄のゴルフコンペは毎回盛況ですでに十六回目を迎えています。

三十年ぶりの同期会

昨年八月二十七日、昭和五十年三月卒業の二十七期生の、卒業三十年で初めての同期会が私学会館・アルカディア市谷で開催された。初めての同期会ということで、古川先生、永利先生のほか、約八十人同期生が集まった。久しぶりの再会に話が弾み、予定の時間は瞬く間に過ぎて、また折角のお料理も大半が残ってしまうほど。すぐ近くで計画された二次会は、ほとんどのメンバーが参加したため、お店に入りきらないという、嬉しい悲鳴が出るほどの盛況ぶりだった。夜もふけるうち、「朝まで飲もう」の徹底組を残し、近いうちの再開を約束して散会となった。

古川先生

永利先生

クラブのOB会や卒業期別の会議室があるのを知っていますか？

石神井高校同窓会ホームページ“石神井クラブ”では、同期会およびクラブOB会の会議室が開催されており、同窓会全体の話題を交換する「石神井サロン」とは別に、いろいろな情報のやり取りをしています。また新規の開設希望も受付ております。

（開催されている会議室・クラブOB会）

フォークソング同好会／軟式庭球部／ESS／放送部／写真部／卓球部／音楽部　※（メーリングリスト）水泳部

（開催されている会議室・期別）

・高校18/26/27/31/32/33/35/36/37/39/42回

東京校歌祭のご案内

東京校歌祭は本年も１０月７日（土）１４：００から日比谷公会堂で開催されます。本校の出演順は、参加２０校のトップ・１番目です。

♪同窓会の皆様、多数のご参加をお待ちしています。

本校OB・現役で構成されるブラスバンド（イシブキ・石吹）の演奏で「校歌」を歌います。昨年の参加者は34人でした。今年は50人以上で公会堂の舞台に立ちたいと思います。

詳細は下記の通りです。

記

１．開催日時　　平成１８年１０月７日（土）１４：００
２．集合時刻　　同　　１２：３０
３．集合場所　　日比谷公会堂　正面受付　　階段上がる
４．練習　　集合の後、１３時頃から練習、音合わせします
５．参加費　　無料
６．曲目　　・新制高校校歌（♪緑なすここよ武蔵野♪）
　　・旧制中学校歌（♪粋然と東亜のみなか鎮もれる♪）
７．その他　　日本寮歌祭の特別参加（三高・七高他）もあります。
　　終了後、自由参加で懇親会を予定
８．問合せ　　同窓会ホームページ「石神井サロン・掲示板」または、
　　高２０回　副会長　高橋一夫　FAX03-3991-3586にて
　　お願いします。

第１４回東京校歌祭

平成18年10月7日（土）午後2時　日比谷公会堂
特別参加　日本寮歌振興会　主催　東京校歌振興会　後援　東京都

時間	分	順	項目	内容	
14：00	3		会員挨拶	東京校歌振興会 会長 井上 成一	
03	3		来賓挨拶	かながわ校歌祭 実行委員長 天野 武和	
06	2		開会宣言	東京校歌振興会 実行委員長 太田 秀一	
出演時間			出演校	旧校名	備考
14：10	8	①	石神井高	府立十四中	現役・OB混成 ブラスバンド
20	8	②	江北高	府立十一中	
30	8	③	千歳高	府立十二中	
40	8	④	福生川高	府立七中	
50	8	⑤	興国高	府立三中	
15：00	8	⑥	戸山高	府立四中	
10	8	⑦	国立高	府立十九中	
20	8	⑧	〃 高	府立一商	
30	8	⑨	小山台高	府立八中	OBブラスバンド
40	20		休憩		
16：00	23	⑩	特別参加	第二高等学校（紺）	逍遥の歌「紅萌ゆる」
特別参加			日本寮歌祭	新潟高等学校	故郷の歌「生命ここに」
日本寮歌祭				東京高等学校	夏 吾 郎「飛ばせよ鉄火の」
				第七高等学校造士館（紺）	寮　歌「北辰興に」
25	8	⑪	三　商	府立三商	
35	8	⑫	竹川高	府立二中	
45	8	⑬	西　高	府立十中	
55	8	⑭	小石川高	府立五中	
17：05	8	⑮	新宿高	府立六中	
15	8	⑯	文京高	第三市立中	
25	8	⑰	九段高	第一市立中	
35	8	⑱	豊多摩高	府立十三中	OBブラスバンド
17：45	5		今回会場	「あおげば尊し」	
50	2		閉会の辞	東京校歌振興会 実行副委員長 赤堀野 雄久	
52	1		司会宣言	小林 由利	

次回開催日：第15回　平成19年10月6日（土）

旧 府立第十四中学校　現 都立石神井高等学校

石神井高校校歌

作詞 高田 久郎
補 吉田 精一
作曲 渡部 和雄

緑なす　ここよ武蔵野
萌え出づる　叡智の園生
若き子の　望みは高く
誠もて　真理を窮む
これぞ理想　われらが希求

梅にほふ　学びの庭に
すがすがし　大気のかをり
かぎりなき　真澄の空に
あふぎみる　富士の高嶺よ
これぞ誇り　われらが象徴

さんらんと　自由の光
みちあふる　文化の泉
おお石神井　われらが母校
新しき　世紀の朝に
眉あげて　ともに進まん
これぞ誓ひ　われらが生命

十四中校歌

作詞 吉木 利光
作曲 岩本 政蔵

粋然と
東亜のみなか鎮もれる
富士の高嶺は紺碧の
空に久遠の雪含み
御祖の御影崇敬と
こゝ石神井を天照らす

涼涼と
湧きてぞ流るゝ三千年
武蔵が原に清明の
泉掬びてみそぎつつ
御稜威畏み劫劫と
わが石神井に正気満つ

芳華に
いで魅けん白梅の
蕾と薫る男子我れ
若き力に瞬あげ
狂瀾の濁路敢然と
使命は重し今ぞ起つ

石神井応援歌

自然の王者　武蔵野の
大地に育つ　石神井の
我らは健児　誇りは高し
いざや示さん　栄えある力
石神井　石神井　オー！
我らが母校

気高き荒野　武蔵野の
大地に育つ　石神井の
我らは健児　誇りは高し
いざや示さん　栄えある力
石神井　石神井　オー！
我らが母校

校歌祭プログラムより

“プロジェクトS”講演会

去る十一月十九日、母校の会議室で、同窓生二十七期でＮＨＫの現役アナウンサーである道谷真平さんによる講演会が開かれました。この講演会は本校「父母と教師の会」主催で卒業生をはじめとして現在各界で活躍するプロフェッショナルの方々から業界の内側のお話を伺おうと企画されたものです。道谷さんは、ＮＨＫの中でもスポーツアナウンサーとしての経験が長く、オリンピックでの谷亮子選手「やわら」ちゃんの優勝の中継をしていて、同級生の間でも話題になりました。

当日は残念ながら日程の関係上現役生徒にお話を聞かせることができませんでしたが、「父母と教師の会」を中心に、楽しくお話を伺いました。石神井高校現役時代は柔道部の猛者で、体育祭の応援団長でもあった道谷さんのお話は、現役で活躍するアナウンサーとしてのお話だけでなく、決して優等生ではなかった学生時代のこと、順調な道ではなかったことなど、楽しい中にも今の高校生に聞いてもらいたいエピソードに満ちていました。

実際の各界で活躍している人たちの姿をじかに見てもらうことは、特に自分の目的や方向を見つけられない子が多い現在の教育の世界で、とても大切なことだと思います。今回の道谷さんに加え、十二月には現在の金融コンピュータシステムの中核でお仕事をしている三十二回生の浦川さんの講演なども開催され、同窓会が石神井の現役生を励ますことができればすばらしいことだと感じました。

母校石神井高校今年のカレンダー

4月7日	入学式
5月1日	生徒総会
5月24日	教育実習開始
6月3日	体育祭
6月28日	生徒会役員選挙
7月19日	夏休み開始
9月1日	始業式
9月17/18日	文化祭
10月11日	遠足
10月21日	学校説明会
10月30日	教育実習開始
11月11日	開校記念日
12月25日	終業式
1月30日	修学旅行（二年）
3月10日	卒業式
3月23日	終了式

黒菱山荘の利用方法～山荘を利用しませんか？

山荘の管理は、黒菱山荘委員会が行っています。以下の利用規程について、ご理解の上ご利用ください。

☆利用資格石神井高校生（ただし保護者の同伴が必要）・ＰＴＡ会員・同窓会員・教員・その同伴者

☆宿泊費

石神井高校生	無料
同窓生、教員、元教員	2,000円
その他の方	2,000円
学生	1,000円（未就学児無料）

☆利用期間夏休み期間中、年末年始およびスキーシーズンなどに利用期間を設定

☆利用申し込みの手順

① まず大体の日程、人数等をお知らせいただき、下記までお問い合わせください。
※連絡問い合わせ先
『黒菱山荘委員会　03-3385-8996(FAX共)泉水まで』
当日の小屋番の有無、申し込み状況、山荘概況等をお伝え出来ます。

② 所定の申込書にてお申し込み下さい。ご記入は正確にお書き下さい。
特に現役生、卒業生・一般などの区分、宿泊日・日数等を明記下さい。

③ 申し込みから1週間以内を目安に指定口座宿泊費をに入金して下さい。
※入金が確認されませんと現地で宿泊をお断りする場合がありますのでご注意下さい。
振込用紙の控えは、当日山荘で入荘時に小屋番が提示をお願いする場合がありますので、大切に保管の上当日携帯して下さい。

★指定口座

東京三菱銀行　新座志木支店（ニイザシキ）　普通　１６０３５９６
石神井高校山荘委員会（シャクジイコウコウサンソウイインカイ）

④ 申込書を受理し入金が確認されますと、折り返し『山荘利用のしおり』をお送りします。
※ＦＡＸ連絡が可能な方にはＦＡＸで、その他の方には郵送で、少なくとも入荘1週間前までに送付します。
万一期日までにお手元に届いていない場合は、ご連絡ご確認下さい。

キャリア教育講演会のご報告

浦川伸一（高校三十二回）

一昨年、石神井高校の現役高校生向けに実施して好評だった「キャリア教育講演会」につき、昨年度も同窓会から人材を推薦いただけないかとの要請を林会長にいただきました。今回その大役をお引き受けすることになり、現役一年生向けの講演会を昨年十二月に実施いたしましたので、この場をお借りしてご報告申し上げます。

同窓会活動は、定期的な名簿発行や総会の開催、黒菱山荘の維持、校歌祭への参加などを通じて同窓生相互のきずなを深めることが主目的だと思っていますが、加えて学校や父母と教師の会との交流も大切にしております。役員会でも折に触れ、現役高校生のために同窓会がもっとお役に立てないものかと思案しておりましたので、今回も学校からの要請に快諾した次第です。

キャリア教育とは、「児童生徒一人一人のキャリア発達を支援し、それぞれにふさわしいキャリアを形成していくために必要な意欲・態度や能力を育てる教育」と、長津副校長にいただいた資料に記載されております。対象は1年生約２４０名全員、時間五十分でした。

どのような話が皆さんの役に立つというか、関心を持って聴いていただけるのか、長津副校長にも相談させていただきながらいろいろ考えてみました。自分とは二十八歳のひらきがある世代。堅い話、教訓・説教じみた話、自分の専門であるＩＴ業界の話などを持ち出しても白けるだけだろうと思い、自分が高校一年だった頃の心境や不安などを今一度思い出し、高校入学から石神井での思い出、受験、大学生活や就職活動と社会人生活、すなわち十六歳から二十五歳ぐらいまでの十年間の出来事を話すことにしました。

成功談よりも、失敗談やエピソード、窮地からの脱出といったたぐいの話が共感をもっていただけるかなと思い、多少おもしろおかしく自分の生き様を話してみました。かなり身近なテーマだったせいか、関心を持っていただけたようで、生徒諸君の目の輝きの違いがよくわかりました。学業がふるわなかったこと、文系・理系で悩んだこと、体育祭で男ながらに涙したこと、死にものぐるいで受験勉強したこと、失恋したこと、大学で五月病になったこと、社会人になっても成績が振るわず大変落ち込んでいたことなどなど。他人の浮き沈みの話というのは、感情移入しやすいようで、神妙に聞き入ってくれたことは私にとっても収穫でした。生徒諸君の不安や共感、好奇心に満ちた輝かしいまなざしは忘れるものではありません。

講演後、長津副校長の取り計らいで、生徒に書いてもらった感想文をわざわざ全員分自宅まで郵送いただきました。驚いたのは、お世辞半分とは思いますが、多くの好意的な意見をいただけたことでした。講演の最後に、「友人は大切。それは誰でもわかっていること。でも自分が輝いていなければ、今の友人がずっと友人でありつづけるかどうか。輝いている自分を見つけて欲しい。人生はＧＩＶＥ＆ＴＡＫＥ。取り巻く他人がいて人間は成長できるし、他人や社会に対して何か与えてあげられるような自分を見つけて欲しい。これはニートやフリーターではできない。だから社会人であることはすばらしいのですよ。」といった主旨のことをお話しました。約半数の感想文に、このＧＩＶＥ＆ＴＡＫＥという言葉が印象に残った、とありました。頑張れば何かが開けるんだ、という前向きな考えを持って頂いた生徒さんも多数ありました。

ニートやフリーターの増加が社会問題になっていますが、そんな生き方はだめだよ、ってストレートに話しても、彼らの耳には入りにくいでしょう。私はそれを、「自分が輝く」というわかりやすい言葉に置き換えて、社会に関わることや社会人であることの大切さを説明してみたつもりです。

五十分という短時間では、充分に伝えきれない事も多く、また本来このような話は、ツーウエイ、すなわち対話しながら進めていくことがより効果的だと思います。ただ、多くの生徒諸君にとって、生き方を考えてみる小さなきっかけになったのではないでしょうか。同窓会としても、母校とのつながりを継続し、魅力ある石神井高校の維持に少しでもお役に立てれば大変有意義なことと思います。

最後になりますが、この場をお借りしまして、今回の講演に尽力いただいた福本校長、長津副校長をはじめ、進路指導、並びに担当教員の方々に厚くお礼申し上げます。

JAM-TAKO（ジャムタコ～31回生の同級生バンド）のチャリティ活動　藤野　遵　（高31回）

オリジナルの曲がまとめあがっていく。演奏しているのは、歌っているのは、紛れもなく私たち、JAM-TAKOだ。
石神井高校、青春の一時期をフォークソング同好会でともに過ごした、同級生バンドだ。
あれからずいぶんと、時間は流れた・・はずなのに、こうしていると、秘密基地みたいな連帯感の持てたほの暗い小講堂や、あのきらきらとした陽射し、渡り廊下のさざめきたちが、活き活きとよみがえる。
４０歳になったのを機に盛大に行われた同窓会で、私たちは再び出会った。
私、リーダーの藤野は、開業医をしている。当時からドラムに夢中でプロになりたかったが、結局、内科医という職業を選んだ。
ヴォーカルの田中あかねは、高校在学時から、歌っていた。プロになって、高校はやめるらしいよ、なんて噂が、まことしやかに流れたものだ。
今は国立大の助教授になって、研究と臨床をこなす、獣医師だ。
ヴォーカルとキーボードの後藤美樹は、音楽好きのまま、心理学を学んで、子どもの相談に携わる臨床心理士になった。歌詞作りでも、心を伝えられるよう、言葉選びを大切にしている。
みな医療・福祉の領域で働き、それぞれの仕事を通して、様々な人との出会いがある。
せっかくオリジナルの曲がこれだけ仕上がって、CDっていう形にしよう、CDっていう形にするのなら、何か社会の役に立ちたいね・・と、チャリティ活動につながった。
もともと、私、リーダーの藤野は、自身の医院に日本肢体不自由児協会への募金箱を置いて、チャリティ活動に協力していた経緯があった。そのご縁で、JAM-TAKOのCDは、日本肢体不自由児協会公認チャリティCDとして、その売り上げを寄付する運びとなった。
「HEAVEN KNOWS」というアメリカンロック調の１ｓｔアルバムが世に出て、半年余り。
このチャリティ活動を通して、素敵な人たちと知り合う機会を得、チャリティの輪が確実に拡がっている手ごたえを感じている。
何より、社会に形ある貢献をしたいという思いは、自分達を支え、成長させてくれている。
仕事があって、チャリティ活動がある。大人としての心地よいバランスを実感している。
今は、２ｎｄアルバム制作に向け、動き出している。
この、ぐぐっと結束する集中力は、石神井で過ごした仲間だからこそ。
大人になってからのクラブ活動は、実に豊かな時間。
石神井は、私達JAM-TAKOに、こんなに素晴らしい出会いを与えてくれた。
人とつながる、気持ちを伝える、分かち合う、前向きに努力する・・・
石神井で過ごした確かな日々の積み重ねが、教えてくれた、人として大切なこと。
今、JAM-TAKOがオリジナルの楽曲を通して伝えたいのは、そういった「愛ときずな」。
是非、聴いてほしい。JAM-TAKOの１ｓｔアルバム「HEAVEN KNOWS」を。

JAM-TAKO / HEAVEN KNOWS　税込み1000円
お問い合わせ先：
ホームページ：http://www.jam-tk.jp　TEL：03-3922-3636（和菓子のあわや惣兵衛）

同級生の歌声に酔いしれて　板谷方彦（高27回）

去る12月16日、石神井高校卒業生の野田理恵子さんのソプラノリサイタルが西東京市の「こもれびホール」で開かれました。彼女は私と同期の27期、昭和50年3月に石神井高校を卒業後、芸大、劇団四季を経てイタリアに渡って向こうで結婚されたことを風のうわさには聞いておりました。もう20年も前にTBSの音楽番組で、往年の名メゾソプラノ、ジュリエッタ・シミオナートにローマで個人レッスンを受けている姿を拝見し、仰天したことを覚えています。

そんな彼女が以前「きずな」に近況を寄せてもらった関係で連絡がつき、昨年約30年ぶりに再会した折に、日本で演奏活動を開始したいというご希望を聞きました。私自身、石神井生の時代に当時の音楽科を担当されていた河西保郎先生の薫陶を受け、自分の会社のコンテンツ制作部門を強引に拡充してクラシック専門のインディーズレーベルを立ち上げて以来約10年、お役にたちそうな経験もあったので、リサイタルの運営をお手伝いすることを喜んで引き受けました。

イタリアで本格的な勉強をし、スカラ座に所属して活躍していたということは後で聞きましたが、彼女の歌を録音したMDを聴いて、その歌声の豊かさと巧みさに大いに期待を持ち、プログラムやポスターの制作に追われる間に、すぐ当日。

開催地が地元ということから同級生の懐かしい顔もずいぶん集まり、アットホームな雰囲気のなかで演奏が始まりました。ステージマネージャーを引き受けている関係上、残念なことに舞台の袖に居ざるを得なかったのですが、想像を超えた歌声が響きだすと会場の雰囲気がみるみる変わっていくのがよくわかり、その瞬間に聴衆の心をつかんだことを確信しました。

開催が平日だったため懐かしい同級生同士の集いも持てず、この点はいささか心残りではありましたが、4つのポピュラーなアリアをテーマにした独創的なリサイタルは期待以上の成功を見ることができ、すばらしいひとときを経験することができました。

今年は、12月18日北区の「北とぴあ」でのリサイタルの予定があり、また今回のリサイタルの録音にイタリアでの録音曲を加えたCDも、夏ごろリリースする予定です。

久しぶりに集まった元クラスメートと

彼女とはあの埃っぽい石神井高校時代の同級生であり、修学旅行でクラスのみんなでフォークソングを歌っていた仲間なのですが、そんな彼女がずっと大人になって聞かせてくれた歌は私たちの想像を超えていました。わが世代ももうじき五十、人生もそろそろ第三楽章後半という気もするのですが、彼女のような同級生はちょっぴり誇らしく、また楽しみな存在です。

連絡先　鈴木陽子（高28期）　fwkw3834@mb.infoweb.ne.jp

仮校舎を覗いてみました！

仮校舎北側

一般教室の壁

現役生が勉学に励んでいるのが、この仮校舎。プレハブ校舎とはいいますが、団塊世代のプレハブ校舎とは月とスッポン、清潔で冷暖房完備です。今年の2年生は、学園生活の大部分が仮校舎だけれど、旧い同窓生からは「前よりよっぽどまし！」の声も上がっています。壁の薄さはちょっと気になるけれど、君たちの青春をここで力いっぱい演じてください！！

一般教室

2Ｆ廊下

ベンチの代わり？

階段

全日制職員室

校長室

伝言板（同窓会からのお知らせ）

◎同窓会へのご連絡は、次のいずれかの方法によってください。

郵便物の場合　〒164－0002　中野区上高田1-14-7　「せいとう」本部内石神井倶楽部
電話・ファクシミリの場合　03-3319-1122
E-mailの場合　amjack@shakujii-club.gr.jp
ご注意　母校では同窓会業務を取り扱うことができません。不着等のトラブルもありますので、上記宛にご連絡願います。

◎会費の追加払込について

同窓会の会費は、その年度の定額分 2,000円をお支払いください。
ただし、前年度またはそれ以前の未納分についても支払いたいというご意向があれば、喜んでお受けいたしますので、ご協力の程お願いします。その場合は、次の方法によりご送金ください。

郵便振替口座番号00170-6-50972　加入者名　東京都立石神井高校同窓会

※恐縮ですが、振込に関する手数料はご負担下さい。ただし、手数料を差し引いた金額で送金されても結構です。

同窓会誌「きずな」第55号平成18年5月発行

発行人　同窓会長　林　弘
発行所　都立石神井高校同窓会
東京都練馬区関町北4-32-48
印刷所　株式会社文明社　東京都新宿区榎町79番
Tel 03-3203-6617

http://www.shakujii-club.gr.jp

※総会当日までにもニュースを更新しますので、ぜひチェックしていてください。